

滝上シバザクラ公園と周辺の環境緑化の新しい試み

北海道紋別郡滝上町役場

商工観光課

井上幸子

1 滝上町の芝桜への取り組み

全国的に知られる眺望絶景の滝上公園は大正11年に町内の有志により、桜の苗木一千本の寄付を受け、道内でも屈指の桜の名所として知られることになりました。

一方、芝桜は昭和34年にみかん箱一つから始まりました。

南向きの斜面である滝上公園では、芝桜の特性に最適の地であり、毎年増殖を重ね、現在では、10万平方メートル（甲子園グラウンドの約7倍）の大群落に広がりました。日本一のシバザクラ公園は年間24万人の観光客を集めるまでになり、滝上花観光を確立いたしました（表紙写真）。

“芝桜”

和名：シバザクラ

英名：モス・フロックス

学名：*P. Subulata L.*

植物分類：多年草

園芸分類：ハナシノブ科

クサキョウチクトウ属

原産地：北アメリカ

栽培特性としては、茎は地を這い、各節から発根して増えます。暑さ寒さに強いですが、多湿で腐ることがあります。シバザクラは種子が出来にくいですが、他品種と交配して1代雑種が出来ることが多く、時々、わが家の庭でも、思いがけない花を見かけることがあります。

滝上公園では、シバザクラの手入れ、周辺の環境整備に、年間1,500万円くらいの費用を掛けています。直接の作業は滝上観光公社が当たっています。しかし、長年の単一植物の植栽には地力の低下、それとともに雑草の繁殖が強くなり、その対策に

は頭を悩ましています。

いろいろな試みをしてはいますが、これと言った最良の方法はなく、現在除草は人手のみで行なっています。

2 ハーブによる緑化の試み

この滝上公園より800 m くらい離れた場所に10年前より手掛けているハーブ園があります。ここでは、寒地での露地栽培が可能な品種を植えてあります。ここでのハーブの育成を参考に、滝上公園の周辺をハーブで緑化できないかと試んでいます。今、始まったばかりですが……。

試み例 1

チャイブ

アリウム属、ユリ科、多年生。

エゾアサツキは最も近い品種です。同種と書かれている本もあります。

少しやせた土地でも耐えられます。



写真1 チャイブ

6～7月までの開花期があり、こぼれ種でよく繁殖します（写真1）。

試み例 2

ヒソップ

シソ科，多年生，半常緑低木，和名・ヤナギハッカ。

初夏にラベンダーによく似た花姿で，紫，ピンク，白があり，日当たりが良ければ多少の荒れた土地でも育ちます。また，天然更新が割とよくできます（写真2）。



写真2 ヒソップ青紫

試み例 3

ジャーマンカモミール

キク科，1年生，和名・カミツレ。

初夏～秋まで，こぼれ種で次々と花を見せます。頭花を指で押すとリングの香りがします。ハーブティーとしてもよく飲まれるものです。排水，日当たりの良い土地でよく育ちます。この植物は衰えた植物の近くに植えるとその植物は元気



写真3 ジャーマンカモミール

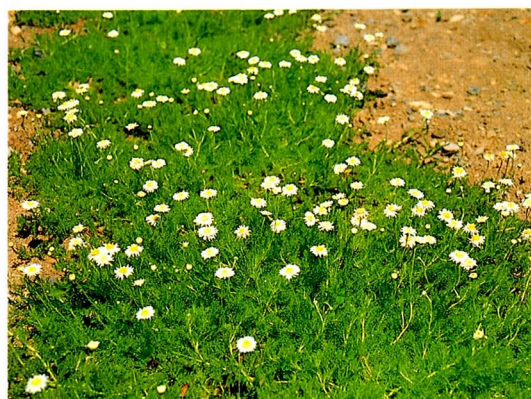


写真4 ローマンカモミール



写真5 庭のハーブ

を取り戻しますので，この力が地力の衰えてきている滝上公園ではかなりの効果が上がると思っています（写真3，4）。

また，ハーブ園では，植物同士の力を借りて，土地の肥沃化，除草，病虫害などの対策を考えています。

今までに緑肥用のアンジェリア（はぜり草）を試みてみましたが，花の色がハーブと言うイメージで，7月に植えると雪が降るまで花が見られますので極めて好評です。

ハーブ園の土地が粘土質であり，アンジェリアはある程度の効果が見られています。

今後も緑化に当たっては，有益な関係が生まれる植物を混植して，植物相互の共生関係を利用して行なっていきたいと思っています。

基本的には適地適作で，花を植え，観光地としての美しさを保っていきたくて考えています。

まだまだ試みの段階です。